

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「夢や希望をかなえる学校」「安全で安心な学校」「地域に根ざし信頼され愛される学校」

- 多様な個性をもつ生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、「社会を生き抜く力」を身につけるための基になる「確かな学力」「社会人基礎力」をはぐくむ。
- 安全で安心な学びの場で、思いやりと感謝の気持ちを大切に、人権尊重の教育を推進して、互いに認め合い尊重しあう「豊かな心」をはぐくむ。
- 厳しさの中にも、やさしさ・温かみのある丁寧な指導を通して、規範意識や自尊感情を高め、「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する力」をはぐくむ。

2 中期的目標

1. 「確かな学力」「社会人基礎力」「真面目に努力し続ける力」の育成

(1) 「わかる授業」の展開により、自信や達成感を持たせ「学ぶ楽しさ」を知ることで、学習に向かう姿勢と基礎学力の向上をはかる。

- 生徒一人ひとりの実態を把握し、主体的な学びを実現するための授業力向上に取り組む。
- 1人1台端末導入を受け、オンライン授業やICTの活用等を通して、対話的な学びを実現するための授業実践に取り組む。
- 学んだことを活用し、自らの可能性を生かすことのできる深い学びを実現するための授業実践に取り組む。
- 新教育課程及び観点別学習状況の評価のスムーズな運用に努める。

(2) 多様な進路実現のための学力向上および社会人基礎力、真面目に努力し続ける力の育成に取り組む。

- 3年間を見通したキャリア教育計画により、学びに向かう力を育成する。
- 個々の目標に応じた進学支援体制を構築し、生徒の進路実現に取り組む。進路未決定率(R1:6%、R2:5%、R3:5%)を令和6年度には3%とする。
- コース制(スポーツサイエンス、情報技術専門及び総合系)を本校の強みとして積極的に生かし、生徒の自己実現につなげる。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業が分かりやすい」(R1:51%、R2:51%、R3:57%)を令和6年度には、60%とする。

※生徒向け学校教育自己診断における「進路指導が充実している」(R1:56%、R2:56%、R3:59%)を令和6年度には、65%とする。

2. 「豊かな心」の育成

(1) 教育相談体制をさらに充実させ、教育支援委員会を有機的に運営することによって、一人ひとりを大切にする教育をいっそう推進する。

- 学校生活支援カードやアセスメントシートを活用したきめ細かい生徒の実態把握により、情報を共有して迅速に対応できる支援体制を整える。

(2) あらゆる教育活動を通じて、人権尊重教育を推進する。

- 学校いじめ防止基本方針の徹底をはかり、いじめ対策委員会を有機的に運営することによって、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に取り組む。
- 3年間を見通した人権教育計画により、思いやりや感謝、他者を認める人権尊重の精神および自尊感情を育成する。
- 教職員の人権意識向上のため、教職員向け人権研修を実施する。

(3) 多様な人間関係の中でコミュニケーション能力を養成する教育を推進する。

- クラス開きプログラム等の人間関係構築プログラムの研究および導入に取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談関連の肯定的回答(R1:53%、R2:51.9%、R3:54.4%)を令和6年度には、65%とする。

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育関連の肯定的回答(R1:56%、R2:59.9%、R3:62.8%)を令和6年度には、65%とする。

3. 「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する力」の育成

(1) 規範意識と社会性を高める教育を推進する。

- 一人ひとりを大切にする丁寧で粘り強い生徒指導により、「なぜ」ルールを守ることが必要なのかを理解・納得させ、遅刻者数の減少とマナーの向上に取り組む。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒自らが積極的・自主的に活動できる力を育成する。

- 3学年を見通したLHR・総合的な探究の時間の計画により、主体的に考える力を育成し、早い時期から自分の将来について考えさせる。
- 部活動の活性化と生徒会活動、生徒委員会活動を充実させ、主体的に活動できる力を育成する。

※年間遅刻総数(R1:3027人、R2:2698人、R3:3434人)を令和6年度には、2000人以下とする。

※部活動加入率(R1:38%、R2:37%、R3:32%)を令和6年度には、50%以上とする。

※生徒向け学校教育自己診断における特別活動関連の肯定的回答(R1:58%、R2:53.3%、R3:71.4%)を令和6年度には、75%以上とする。

4. 地域に根ざした学校づくり

(1) 広報活動をいっそう充実させ、「魅力的な学校」「行きたい学校」としての認知度を高める。

- 学校Webページや中学校訪問・学校説明会等を活用し、本校の教育活動(コース制のセールスポイント等)の情報発信に努める。

(2) 家庭や地域との連携・協力体制の充実をはかり、生徒の自立を支援する。

- 学校Webページの定期的更新を行い、学校の情報発信に努める。
- PTA活動内容の充実により、PTA行事や学校行事への保護者の参加を増やす。
- 地域の活動や地域に向けた取り組みに参加することで生徒に自己有用感をもたせ、地域に貢献する意識を育成する。

5. 教職員の長時間勤務の縮減および健康管理

(1) 会議でのペーパーレス化を図ることで、準備にかかる時間の軽減に努める。

(2) スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどはもとより、外部人材の有効活用に努める。

(3) 教職員の負担軽減のため、既存の業務や役割分担の見直し、残業時間の可視化を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○生徒に対する質問項目において、肯定的意見が昨年度を下回る項目は一つもなく、「19. 学校の図書館を利用したことがある」は+1%と微増にとどまったが、それ以外の項目においては、13~39%もの肯定的意見の増加となった。</p> <p>○3年生の肯定的評価の数値について、過去2年間で他学年と比較して低い水準にあった。体育祭や遠足、そして進路指導など4月から生徒たちの気持ちをこれまで以上に学校へ向けさせることで、学年の活性化につながり、肯定的回答の大幅な増加となった。学校の中心である3年生が成長することで、後輩たちにも好影響が現れ、学校全体の肯定的評価の上昇につながった。</p> <p>○生徒2「安心して授業を受けることができる」(R2:54、R3:63、R4:82)【+19】 生徒3「生徒指導しっかりしている」(R2:62、R3:68、R4:88)【+20】</p>	<p>第1回(5/23) 【協議】 (1) 令和4年度学校経営計画の修正箇所について 校長より修正箇所について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 「2 中期的目標」の5. 教職員の長時間勤務の縮減および健康管理の(1)について、当初、「全校一斉休日、ノークラブデー(部活動休業日)の明確化」として、全校一斉休日において、19時以降の時間外勤務「0」を目標としていたが、実際にそぐわないため、「会議のペーパーレス化を図ることで、準備にかかる時間の軽減に努める。」と変更。 (2) SC、SSW等外部人材の有効活用においては、SC、SSWによる事例検討等の研修、府立外教事務局から講師を招いてジェンダー平等教育、スポーツメンタルトレーニング指導士を招いて教員のメンタルスキルの向上研修等で教員

学校教育の根幹をなす学業と生活指導について、肯定的意見が大きく増加

特に対話を意識した指導を心掛けたことにより、

生徒4「先生の指導は納得できる」(R2:46, R3:49, R4:66)【+17】

生徒5「努力したことを認めてくれる」(R2:57, R3:64, R4:90)【+26】

生徒6「生徒の話をよく聞いてくれる」(R2:60, R3:66, R4:88)【+22】

生徒9「悩みや相談に親身になって応じてくれる」(R2:50, R3:55, R4:91)【+36】

生徒10「保健室や相談室で気軽に相談できる」(R2:52, R3:53, R4:83)【+30】

と、肯定的意見に伸びが見られている。保健室の利用については、2学期から外科的処置が必要な生徒や本当にしんどい生徒たちだけが来室できるようにしたこともあり、安易な保健室利用の減少が見られ、必要な生徒の場所となったことが大きい。

また、保護者7「悩みや相談に親身になって応じてくれる」も(R2:53, R3:59, R4:78)

【+19】とこちらも伸びており、指導方法の転換が高い評価を得ていることがうかがえた。

この肯定的意見のうち、半数以上は「ややあてはまる」である。「よくあてはまる」と回答する生徒を一人でも多くするためにも、この数値に満足することなく、これまで同様、PDCA サイクルを機能させていく。

○生徒18「授業が分かりやすい」(R2:51, R3:57, R4:84)と【+27】上昇した背景には、ICT 機器利用が本格的に行われ、ICT を使うための授業ではなく、必要な時にICT を利用するといった「ハイブリッド型」の授業の展開に成功していることが大きい。特に1、2年生では90%近い生徒が肯定的回答であり、タブレット端末に入学時から取り扱っていることが、起因していると考えられる。ただ、1年生の学力は経年比較で下降している。授業で理解したことを自分の力として獲得するための仕組みづくりが急務である。

○生徒15「学校行事が充実している」については、今年度体育祭、文化祭ともにほぼ3年前と同じものを実施することができた。(友人の招待不可が唯一異なる点)さらに学年企画として、球技大会やミニ運動会を開催してくれたおかげもあり、(H29:73, H30:74, R1:65, R2:69, R3:72, R4:91)【+19】と過去5年間の最高数値を記録した。

○いじめ対策委員会は今年度3回開催された(目標は各学期に1回以上)。いじめと認知した案件は、すべて問題解決に至っている。学校全体が「いじめは許さない」という空気感を持ち、教員が協力して、情報収集や生徒のケア、指導を行うことなどができたことが、早期発見、早期解決につながっている。その結果として、生徒8「学校はいじめやめめ事など見逃さずに対応してくれる」は、(R2:47, R3:49, R4:88)【+39】と今年度の最上昇数値につながった。

○学校経営計画の評価指標の達成度〔 〕がR4年度の目標値

1(1)ア. 教職員項目4~7 R3:69⇒R4:86 [72]

イ. 生徒18「授業が分かりやすい」 R3:57⇒R4:84 [60]

ウ. 生徒19「図書館を利用したことがある」 R3:48⇒R4:47 [なし]

2(1)ア. 教育相談関連 教職員12 R3:86⇒R4:90 [90]

生徒9 R3:54⇒R4:91 [60]

(2)ア. 生徒1「学校に行くのは楽しい」 R3:59⇒R4:82 [65]

イ. 人権関連 教職員8 R3:58⇒R4:80 [65]

生徒17 R3:63⇒R4:90 [65]

3(1)ア. 生徒4「先生の指導は納得できる」 R3:48⇒R4:66 [50]

イ. 生徒7 規範意識 R3:77⇒R4:90 [80]

(2)ア. 教職員13「特別活動、学校行事が生徒の育成につながっている」

R3:68⇒R4:90 [75]

生徒16「HR 活動に積極的に参加」 R3:64⇒R4:87 [65]

イ. 生徒15「行事は楽しい」 R3:71⇒R4:91 [75]

○生徒1「学校に行くのは楽しい」(R2:60⇒R3:59⇒R4:82)

保護者の学校運営に対する評価も、生徒と同様にすべての質問項目で上昇した。上昇幅は+10~+25である。

保護者11「学校は家庭への連絡や意思疎通を行っている」(R2:67⇒R3:64⇒R4:83)【+19】 家庭との連携を十分に行うことで、情報共有することが、保護者の学校理解につながり、学校との協力体制が構築できた。最前線で責任を担う副担任等がサポートすることで、保護者との連携をさらに深め、生徒一人ひとりの理解につなげることで、生徒たちを輝かせたい。

体育祭や文化祭において、保護者の観覧が可能になったことから、保護者13「学校行事に参加したことがある」(R3:29⇒R4:47)【+18】も上昇している。このように授業参観や学校行事への参加率を高め、生徒たちの成長している姿を見ていただくことも、重要であり、学校へ足を運んでいただくための仕組み、工夫を考える必要が大いにある。

保護者1「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」69⇒64⇒75【+11】

と上昇傾向。「月に1回は何か行事がある」という取り組みを継承し、4月、5月の学校生活に適応させたこと、そして何より、体育祭と文化祭がコロナの影響を受けつつも、ほぼ制限をすることなく、実施できたことが大きい。熱中症への対策や濃厚接触者になってしまうことを防ぐ指導など、課題もあったが、生徒たちの行事への満足度を獲得することができたことが、学校へ足を向かせている大きな要因である。

○教職員10「校則について話し合う機会がある」62⇒50⇒52【+2】

服装に関するルールの意見交換を実施したが、議論が行えていない。職員会議の在り方が問われる中、どのような形で教員が話し合う時間を確保していくのかを考えていかなければならない。

がプロの話を身につけるための研修を実施予定。

・(3) 教職員の負担軽減のため、既存の業務や役割分担の見直し、残業時間の可視化を図る。という点においては、毎月45時間以上の時間外勤務をした教員に対して個別に時間外在校時間を示した紙を配布したり、職員室のホワイトボードへ時間外在校時間が45時間以上、80時間以上、100時間以上の対象者人数をそれぞれ掲示したりすることで可視化する。かつ、80時間、100時間を超過している教員については、産業医の面談を徹底する。時間外在校時間に対してテコ入れが必要と感じており「標準的な働き方」をめざす。

A) 時間外在校時間については、多くは部活動指導と推察。複数の履修で分担することにより軽減しては、

1人1台端末の活用が進んでいるが、さらに有効に活用し業務軽減につなげることを期待する。

With コロナで「行きたい学校」づくりをめざして学校経営をお願いしたい。

B) 自身の勤務地においても会議資料のペーパーレス化を進めている。「報告」は短く「提案」は時間をかけている。「記憶」ではなく「記録」としてデータ化し、効率化・可視化している。

C) できる限り現場とコミュニケーションを取りながらやっている。会議はペーパーレス化しており、追記・修正を朱書きし、昨年度からの変更点などが一目でわかるよう工夫し、同じ議論にならないようにしている。会議にメリハリをつけるためにペーパーレス化を進めている。

D) ペーパーレス化に賛成。生徒向け資料も学習支援クラウドサービスをうまく活用するとよいのでは。

E) 部活動について熱心に指導してくれ感謝。先輩にも恵まれ、部活動が大好き。対外試合も多くしてくれている。

(2) 各分掌、各学年からの本年度の重点目標について

(生徒指導部)

・生徒の背景を踏まえた指導を考えており、中学校との連携や生徒との対話を大切に生徒と向き合う指導をしていく

・遅刻件数3,000件超えを2,500件以内に抑える。そのために新たな取組みを進めていく

・部活動加入率が厳しい状況。女子ダンス部、ブレイクダンス部が健闘している

・学校行事をできる限りコロナ前の形で実施していく

・ICTの活用について広がりを見せているが、さらに進めていく

(教務部)

・5つの分掌を3つに統合した。統合した学校行事を統括する企画部においては、学校行事へできる限り保護者が参加できる形を進めていく

・観点別学習状況評価について、新しい教育課程を実施している1年生の教科担当者か創意工夫しながら実施している

・観点別学習状況評価について、実施する中で新たな課題等が出てくるので集約した上で、内規やルールへ落とし込む

(進路指導部)

・進路未決定者を減らすために、1・2年生の早い段階から進路について考える機会を設ける

・今年度、活用回数が増えた「キャリア教育コーディネーター」を有効に活用し、生徒の希望に沿った就職ができるよう指導を進めていく

(第1学年)

・「応援される人間」を目標。そのために挨拶をする。遅刻・欠席をしない等などの取組を進めていく

・ICTを活用した授業を積極的に実施していただき、授業における質問をしっかりと答えたい学年にしていく

(第2学年)

・「リーダーを育てる」「それを支えるフォロワーを育てる」を目標

・修学旅行があるので、「時間厳守」「当たり前前を当たり前にする」等、豊かな心を育て指導力を入れていく

・修学旅行が終われば、進路の方向性を定めるよう進めていく

・遅刻に対する危機感を持っており、月2回以上の遅刻者を翌月にあつめ、互いの反省文を読み合う機会を作り改善を促す(第3学年)

・3年間、朝のSHRで基礎的なビジネスマナーが身につくような取組を進めてきた。

・学校行事においてコロナの影響を大きく受けてきたので、学年独自の取組をしてきたが、十分ではなかった。

・遅刻指導は進路指導から始めて粘り強く指導していく。

B) 部活動について九人の動きもあるため、見直しを持った対策を進めていく必要がある

ICTの活用については、子どもたちへどのような力をつけさせたいかを見極め、主体的な活用につなげるべき

広報については魅力のある学校になるためにはもっと外に向けて発信をしていく必要がある。例えば最寄り駅で激励等。

C) 外部人材をもっと活用すべき。その活用について、学校ブログで「写真」や「コメント」をこまめに発信する

スポットを当てたアピールが必要

遅刻の指導について、家庭と協力しながら指導していく必要がある

D) 先生方はよく頑張っている

それら学校の良さをSNSで積極的に活用した広報が必要

E) 保護者が何を考えているかを見つめるとやることが見えてくる。

やっていることをもっと明確に示しては

【第2回】(11/28)

【報告】

学校再編整備計画について

・9月の大阪府議会、11月の教育委員会会議において、かわち野高校が枚岡樟風高校に機能統合される案が承認された

・機能統合という形の再編整備は本校の機能を枚岡樟風高校で継承・発展させる形

・教員の落胆はあったが、現在は残る在校生と次年度入学生に全精力を注ぐ方向へ転換

・広報について、7月下旬に進学フェア、8月下旬に中河内合同説明会、9月下旬・10月上旬に東大阪市立・大東市立中学校向けに授業見学及び情報交流会を開催した結果、機能統合が決定したにもかかわらず、校内の第1回・第2回の学校説明会の参加者は昨年度なみとなっている

・今後、機能統合に関わらず校内の環境整備を積極的に進めていく

・次年度選抜において定員を充足できるように進めてまいりたい

○生徒 12 「進路情報を知る機会がある」74⇒78⇒93【+15】

3年生：63⇒72⇒91。進路指導部が中心になり、進学、就職指導に例年以上に力を注いだ。1、2年生ですでに指導した内容、与えた情報が定着していなかったことから、担任も生徒と必死に対話をを行い、進路に向けての心構えができた。

【協議】

- (1) 授業見学について (ICT を活用した授業)
- ・1年生3クラスの授業、情報技術専門コースの授業見学
 - A) 何のためにICTを使うのかすり合わせる必要がある
 - B) 中学校では端末が異なるが、「充電切れ」「画面破損」等課題は共通している
オンタイムで生徒からの提出物が確認できるシステムはあるか？
→ある
 - C) 小中学校に比べて取り組みが進んでいない。ICTを使うことが目的ではなく、学力向上にどう活かしていくかが重要
生徒と同じレベルで教員もスキルアップすれば成果が表れる。どの時間まで対応するか等一定のルールが必要
Web会議システム等同時双方向のアプリは不登校生徒の学習に有効
 - D) 学習支援クラウドサービスの活用について生徒・保護者・学校をどのようにつなげていくかが大切
府教育庁にもいろいろ考えてもらう必要がある
 - E) 子どもたちの興味関心を引き出す授業であった
 - F) メールやSNSを積極的に活用しているが、重要なものは紙ベース。書いて覚えることも重要。
PC等の活用と必要に応じて書面活用など、メリット・デメリットを見極めて、ハイブリッドの活用がよいのではないか。

(2) 「観点別学習状況評価」について

(教務部長)

- ・昨年度まで研修を重ね、本年度から本格実施。現状は授業担当者がその場で実践している。
- ・夏休み前に1年生の授業担当者を中心にランチミーティングを開き課題と実施方法について共有した
- ・今後それを集約して内規やルールに落とし込み次年度以降、自身にも関係するものとして周知をすすめる
→特に意見なし

(3) 「スクールミッション」について

(事務局)

- ・本年度の学校経営計画に基づいて作成
- ・これまでのスケジュールと(案)決定までの流れの説明
- ・本日承認をいただいたら府教育庁へ提出する
→特に意見なく了承

(4) 「業務精選」について

(教頭)

- ・令和4年度のかわち野今後検討PT発足からこれまでのスケジュールと経過および現状について説明
- ・現状は各組織の案が一定まとまり、PTで疑義が生じた点について各組織へ持ち帰り検討してもらっている段階
- ・12月8日のPTで最終確認したものを、19日の運営委員会、22日の職員会議で承認する

※各分掌・各学年から概要を説明

- A) 時間外勤務をなかなか減らすことが難しいのはわかっているが、かわち野の良さは「面倒みのよさ」なので、そこは外さないようにしてもらいたい
- C) 業務精選で余裕のできた時間を生徒との対話の時間にして欲しい
課題のある生徒も次年度多く入ってくると思うので手厚い対応を期待している
中学校の進路指導でもそこを推している

【第3回】(2/8)

【報告】

■「かわち野今度検討PT」業務精選まとめについて

- ・未決定5項目について、
- ①職員会議の曜日変更について・・・木曜に据え置き、5・6限のHR・探究を他曜日に移すこととした
- ②採点機関・・・1・2学期中間後、40分×4限を2日設け、採点、成績処理日に当てることとした。
- ③懇話会期間の延長及び土曜懇話会・・・各学年への調査により、影響は限定的と判断し、変更なしとした。
- ④学年室・・・大職員室の案でなく現状の各学年室制で決定。ただし、経費の面で使用する部屋の限定、無駄をなくす活用を確認。人数が増えるため、当番も増加することも含めて承認。
- ⑤公式SNS・・・全体連絡は「さくら連絡網」と「かわち野ブログ」に限定。学年・担任にばらつきのない活用。

■令和4年度 学校説明会について

- ・昨年度を大幅に上回る147組233名の参加があった。

■各分掌・各学年から今年度総括について

(生徒指導部)

- ・遅効は残念ながら前年度より増加。決まった生徒が数多くしていることが原因。対話で根気強く指導することが必要

(教務部)

- ・今年度から、観点別評価が1年生で本格実施。授業担当者は、苦慮しながら進めている。

(進路指導部)

- ・コロナの影響を受けずに、予定通り進路行事を実施できたことで肯定感が高まった。

(第1学年)

- ・次年度は修学旅行もあるので、「①時間厳守」「②スケジュールリング」「③積極的に参加する」等の力をつけていきたい。

(第2学年)

- ・遅効数が減少。947件→633件で33%減。遅効者を集めてグループワークし、発表させる取り組みをしたことが活きた。

(第3学年)

- ・コロナに振り回された学年であったが、今年度はほとんどの行事がコロナ前と同様の形でできたことは非常に良かった。

【協議】

■「令和4年度 学校経営計画及び学校説明会(案)」について

(担当) 学校教育自己診断の分析

	<p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> • 全体的に肯定感が大幅に上昇。 • 学校行事等が予定通り実施できたことが要因と考えている。 • 地域連携や図書室利用の項目について数値が低かったのが今度の課題 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての項目で肯定的な意見が増加 • 授業に関する項目について上昇率が低かったため、実際に授業を見てもらう授業参観等の機会を作る必要がある <p><教員></p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての項目で肯定的な意見が増加 • 人権に関する情報の共有や教育活動の保護者周知について肯定的意見が高かった。 • 教員間の連携について課題があるため、業務精選を進め、情報共有の時間を作ることが課題。 <p>(校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校教育自己診断において、肯定感の数値が高く出ている。 • 図書室の利用については無線APを設置するので、1人1台端末を利用した授業等で活用し利用率をあげていきたい。 • 遅刻の前年度より増えている。学年集会等で自己の進路等に直結することを意識させていく。 • 教員の業務時間について増加しているため、業務精選を進めている。府からも「働き方改革」を言われており、管理職が率先して進めていく。 <p>■「令和5年度 学校経営計画及び学校評価(案)」について</p> <p>(校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 令和4年度の反省を踏まえ、閉講年度を見据えた中期目標として、伝統をつなくことと、業務精選がある。 • 再編整備において2つの専門コースの選りすぐりの特徴を枚岡樟風高校へ伝承できるよう検討していく。 • PTAの協力により、校内美化、校内環境整備が進んでおり、次年度も1棟2階渡り廊下に「憩いの空間」を作り、生徒の居場所ができるよう整備を進めていく。 • 外部人材を招聘して、専門的知識、技能を持った本気の大人の姿勢を見せる。 <p>(委員より)</p> <p>A)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1学年のスケジュールリングは社会人としてとても重要。 • 学校率就職100%は素晴らしいが、離職率にも着目し、卒業後もフォローして欲しい。 <p>B)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各家庭でできることできないことが、そのまま子どもに現れている。自分が親になったときにしっかりと指導できるようになって欲しいという指導をしてもらいたい。 • しんどくてもやらなければならぬことを、少しずつでもできるようになっていって欲しい。 • 草抜きも、生徒や先生方を巻き込んでみんなで一気にできればよいと思っている。 <p>C)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次年度、課題のある生徒がたくさん入ってくると思う。教員の人数も減るので、学年というより全体でやっていく必要がある。 • 学校に行く意味を持たせるために、指導も必要であるが学校に来ること自体をほめて遅刻、欠席をなくしていく指導も一つではないか。家庭や生徒自身のカもあるが、協力して一人もかけることなく卒業することを目指してやって欲しい。 <p>D)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 環境整備は重要であると感じた。 • 遅刻をしないことのメリットを教えて必要性を教えてあげることで、遅刻数は減るのでは。 • 学校本来の魅力は学ぶことだと思うので、理解する楽しさや嬉しさを体験させてあげることが重要では。機能統合にあたって、かつての「地域の香津高校」のように「かわち野高校といえこれ!」といったようなものを残して欲しい。 <p>E)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 子どもたちを丁寧に指導している先生方の熱意が感じられる。 • 教育の原点は「授業」。子どもたちのやる気に火をつけるような授業をしていくべきではないか • 人権について考えられるような授業も積極的にしてほしい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3年度値]	自己評価
1. 「確かな学力」「社会人基礎力」「真面目に努力し続ける力」の育成	(1) 「わかる授業」の展開 ア. 生徒の実態把握および授業研究	(1) ア・教育産業による基礎学力調査等を活用し、生徒の実態把握および基礎力育成重視の授業実践を進める。 また、頑張った生徒を表彰して、生徒のモチベーションを向上させる。	(1) ア・教職員向け学校教育自己診断の項目4～7（教育課程・成績評価・学力向上・教育活動全般の評価と取組み）を72%以上。【69%】	(1) ア. R4 85.9% 4項目のうち3項目については目標を大きく上回る結果となった。今年度は第1学年での観点別評価が始まったことで、さまざまな意見交換が活発に行われた。(◎)
	イ. 校内外の公開授業と授業アンケートを活用した授業改善の推進	イ・教職経験年数の少ない教員の授業研究会を中心に、校内の授業公開・研究協議をすすめる。 ・授業研究のための研修、他校および外部の公開授業等への参加をすすめる。	イ・校内授業研究会の実施【授業公開を年間2回、校内授業研究会を年間3回】。 ・外部での勉強会、研修等への参加【年間3回】	イ. 授業公開はすでに2回実施した。初任者の授業見学を通して研究協議も2回実施することができた。(○)
	ウ. 図書室やAL 教室の有効活用	ウ・図書室やAL 教室の活用で、調べ学習なども取り入れる。	ウ・各教科それぞれにおいて活用し、授業の工夫点を夏休みまでに共有できている。	ウ今年度は、AL 室を中心に、主にICT 機器を使用した授業展開のために活用することが多かった。(○)
	エ. 1人1台端末の活用頻度の活性化	エ・オンライン授業委員会を中心に環境整備を推進し、ガイドラインにもとづき、オンライン授業についての研究・実践を行う。進捗状況を逐次確認する。	エ・オ ICT 活用やオンライン授業及び観点別評価についての教職員研修を実施する。【各学期 3回】	エ. 情報委員会を中心にICT 活用事例報告や実践報告を実施し、各委員が周囲の教員に説明、実践する形式で行った。(○)
	オ. 新教育課程及び観点別学習状況の評価のスムーズな運用に努める。	オ・教育課程委員会が中心となり、現状確認や課題の把握を必要に応じて適宜行う。		オ今年度の入学生より、観点別学習状況の評価の実施が開始され、各学期に一度、全体で情報共有を行い、各教科も定期的に実践例の共有を行った。(○)
	(2) 多様な進路実現のための取組み	(2)	(2)	(2)
	ア. キャリア教育計画の充実	ア・3年間のキャリア教育計画を全教職員で共有する。	ア・教職員向け学校教育自己診断の「生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。」の肯定的回答を90%。【86.6%】	ア R4 97.4% イ R4 88.8% アイ 今年度はコロナウィルス感染症の影響を受けることなく、進路関連行事が予定通り実施できたため、目標を大きく上回る肯定的な回答が得られた。(◎)
	イ. 進学支援体制の構築	イ・3年間を見通した進学支援体制を構築する。	イ・生徒向け学校教育自己診断の「充実した進路指導が行われている」の肯定的回答を60%。【58%】	
	ウ. コース制のさらなるブラッシュアップ	ウ・かわち野今後検討PT において、コース制のさらなるブラッシュアップについて検討を継続する。	ウ・かわち野今後検討PT を月1回以上定例開催して、議題について検討する。	ウ かわち野今後検討PT から再編整備校内PT に検討母体を移行して統合校に継承・発展させるべく、コース制のブラッシュアップを実施し、相手校との教科間交流の日程調整までできている。(○)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3. 「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する力」の育成</p>	<p>(1) 規範意識と社会性を高める教育を推進</p> <p>ア. 生徒指導に関する全教職員の共通理解・情報共有</p> <p>イ. 遅刻者の減少とマナーの向上</p> <p>ウ. 薬物乱用防止の取り組み</p> <p>エ. 防災教育の取り組み</p> <p>(2) 生徒自らが積極的・自主的に活動できる力の育成</p> <p>ア. LHR・総合的な探究の時間の計画の充実</p> <p>イ. 部活動の活性化と生徒会活動の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の実態把握に努め、全教職員での情報共有、指導に関しての共通理解を図る。校則やルールについて、生徒が理解・納得するまで丁寧に説明する。生徒指導内規の見直しを行い、学年相互で指導内容を統一する。</p> <p>イ・遅刻を繰り返す生徒への指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員、PTA、生徒によるあいさつ運動をすすめる。 <p>ウ・薬物乱用防止について生徒に理解させる。</p> <p>エ・年2回の避難訓練の実施と、AED講習の実施。</p> <p>(2)</p> <p>ア. 3年間のLHR計画、総合的な探究の時間の計画を全教職員で共有し、検証する。首席がまとめ役となり、各学年間の調整・情報共有を行う。</p> <p>イ・新入生による部活動見学会、部活動体験を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭や文化祭などでは生徒の活動領域を増やし、生徒の自主活動を促進する。 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断の「学校生活について先生の指導は納得できる」を50%。[48.1%]</p> <p>イ・年間遅刻総数を2500件以内。[3434件]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断の規範意識についての肯定的回答を80%。[76.6%] <p>ウ. 薬物乱用防止講演会と保健の授業やHRとの連携</p> <p>エ. 事後アンケートにおいて、「緊急時の避難対応について、理解できた」肯定値を80%以上。</p> <p>(2)</p> <p>ア・教職員向け学校教育自己診断の「特別活動、学校行事等が生徒の育成につながるよう工夫、運営されている」を75%。[68.2%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断のHR活動の肯定的回答を65%。[64.0%] <p>イ・部活動加入率を40%。[32%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断の学校行事関連の肯定的回答を75%。[71.4%] 	<p>(1)</p> <p>ア. R4 66%。 対話を前面に押し出した指導への転換の成果 (◎)</p> <p>イ. R4 3369件。遅刻から生じるマイナス面など、対話してきたが改善されない。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R4 90%。遅刻数過多の一方で規範意識の肯定的回答は高い。自己評価の規準を指導していく必要がある。(◎) <p>ウ. 例年通りプリント指導も含み、しっかりと連携できた。(○)</p> <p>エ. R4 93%。放送による2度の避難訓練も、丁寧な繰り返し指導が奏功した。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア. R4 89.8%。 教職員も体育祭や文化祭での生徒の笑顔やいきいきとした姿を見て、行事の大切さを実感できた。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R4 87.6%。育成につながっていると手ごたえをつかんだ(◎) <p>イ. R4 34.7%。1年生の男子生徒がサッカー部やバスケットボール部に複数名で入部してくれた。しかし、それ以外の部活動では入部者0名の部活も出てきて、活動に支障をきたしている。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R4 91%。学校行事関連の肯定的回答は非常に高く、部活動とは切り離して考えられていることがうかがえる(◎)
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4. 地域に根ざった学校へ</p>	<p>(1) 広報活動の充実</p> <p>ア. 学校 Web ページや中学校訪問・学校説明会等の活用</p> <p>イ. 地域の活動や地域に向けた取り組みの参加</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校 Web ページで日常的に生徒の活動を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問・学校説明会についての実施形態の検証を行う。 ・授業公開週間等に、保護者による授業参観の機会を設定する。 <p>イ・地域の行事への本校生徒の参加をすすめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域中学校との部活動での連携をすすめる。 ・地域連携事業としての盾津中学オープンスクール、茶道の公開講座を継続する。 	<p>(1)</p> <p>ア・学校ブログは年間80回以上発信。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問は東大阪市・大阪市・大東市を中心に70校を目標に実施する。学校説明会への参加者数を300名以上[177名] ・保護者による授業参観の機会の設定 <p>イ・地域のイベント参加生徒数をコロナ前の50名程度に戻す。[不参加]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の体育施設を利用して、中学生との部活動交流を行う。 ・盾津中学オープンスクール、茶道の公開講座の実施。

府立かわち野高等学校

<p>5. 教職員の長時間勤務の縮減および健康管理</p>	<p>(1) 会議でのペーパーレス化へのシフト</p> <p>(2) 外部人材の有効活用</p> <p>(3) 在校等時間の適正な把握</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成人数が20人程度までの会議においては、タブレット端末を用いて、ペーパーレス会議を実践し、記録・保管といった作業工程の簡略化に努める。 ・毎日の職員朝礼を統合ICT「かわち野高校」校内掲示板を利用したペーパーレス・オンライン化の定常化に努める。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修講師等、専門家の支援導入により、長時間勤務による健康被害を回避するため、人材バンクの有効利用をすすめる。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校等時間等を適正に把握し、月ごとに個人の勤務実態表と校内平均時間を併記したものを配布する。意識的に勤務時間と向き合うようにすることで、超過時間の削減に向けた取組みに繋げる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・17ある各種委員会において、会議回数の50%以上がペーパーレス会議を実施する委員会の数〔3委員会以上〕 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家の活用〔年間5名〕 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員による総務事務システムへの在校等時間の遅滞なき入力と、前年度同月比90% 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科主任会議、教育課程委員会、情報委員会、かわち野今後検討PT、教務部分掌会と、5つの委員会で50%以上のペーパーレス会議を実施できた。 (○) ・職員朝礼のオンライン化の定着を図れた。(○) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員人権研修、教員メンタルスキル研修、生徒・教職員AED熱中症研修、生徒薬物乱用防止教室、生徒性教育講演会、生徒修学旅行事前学習中継大宜味村観光協会説明会等(○) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時入力する意識は向上している。行事の活性化に伴い、増加傾向を示している。前年度同月比127%(△)
-------------------------------	---	--	--	---